

## ホスピス外来担当のお知らせ

ホスピス外来は午前診察のみです。新患予約は1日2人、再診予約は1日3人までとなっています。

	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日	土曜日
午前 診察時間 9:30~12:30		奥野		細井	奥野	

お問い合わせは 0748-32-5211 (病院代表) 地域連携室まで

## 今年度『こもれびの会』休会のお知らせ

当院ホスピスでは、例年「こもれびの会」という、前年度にホスピス希望館から旅立たれた患者様のご家族様を対象に、グリーンホテルでご遺族様の会を行わせて頂いています。しかし、昨年は新型コロナの感染予防のため中止させて頂きました。今年は開催したいと考えておりましたが、新型コロナ感染の収束がない状況下のため、中止させて頂くこととなりました。そのため今年度も、対象のご家族様に「こもれびの会」の休会のお知

らせと、体調や心の不調を強く感じておられる方があれば、ホスピス希望館が相談窓口となれることをご案内するお手紙を郵送する予定です。十分ではありませんが、ご家族様と一緒に、故人を偲び、悲しみの気持ちを共有し、分かち合うことで、ご家族様が少しでも前に向かって歩き出すことのお手伝いができたらと思います。

(遺族係 谷底)

### 2020(令和2)年度 利用状況

- ・年間入院患者 265人
- ・年間退院患者 264人
- ・病棟稼働率 77.25%
- ・平均在院日数 17.1日
- ・在宅復帰率 41%

### 2020(令和2)年度 ホスピス賛助会収支報告

前年度繰り越し	6,381,927円
個人会員	135,000円
法人会員	0円
受取利息	54円
合計	6,516,981円

### 賛助会のご案内

#### 賛助会のお知らせ

ホスピスのよりよい運営のために、皆様からのご支援をお願いしております。ご支援下さった方々には、ホスピス通信・研修参加案内・催事・活動参加案内などをお送りいたします。ご案内する催しなどにご自由にご参加いただけます。



#### 賛助会への入会

振込み用紙にて会費の振込みをもって、入会とさせていただきます。

#### 賛助会費(年会費)

個人 一口 1,000円  
法人(団体) 一口 10,000円  
いずれも何口でも結構です。

#### お問い合わせ先

〒523-8523 近江八幡市北之庄町492  
tel.0748-32-5211 (代表)  
担当：澤谷まで

### ホスピスボランティア募集!!

お花のお世話、ティーサービス、お話し相手、料理、お菓子作り、行事のお手伝いなど、一緒にケアに参加して下さる方を探しています。学生ボランティアも歓迎!!



連絡先 0748-32-5211 (代表) 担当：久城まで

### 編集後記

新型コロナウイルスの感染予防として面会制限が行われ長期化しています。今回は少しでもホスピス病棟の様子やスタッフの思いをお伝えできればと思い作成いたしました。一日も早いコロナの終息を願うとともに、いつでも面会・外出泊できる日が訪れることを願っています。

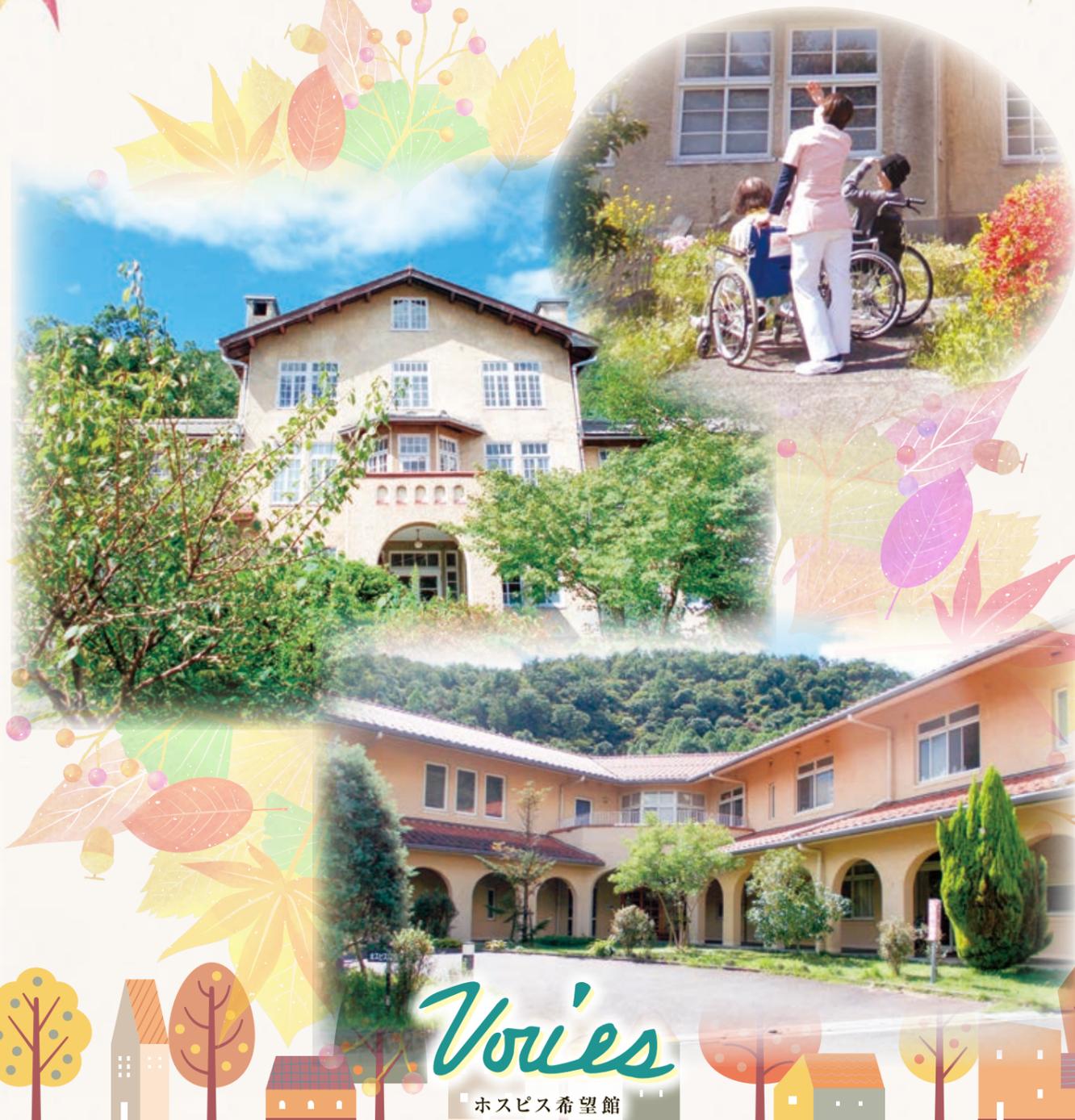


ヴォーリス記念病院ホスピス 2021年11月1日発行

# 希望館だより

第25号

発行元 ヴォーリス記念病院 〒523-8523 近江八幡市北之庄町492



Vories

ホスピス希望館

患者さんと  
植えたトマト



# 夏祭りのようす



面会室ポスター



瞑想室



庭で  
摘んだ苺



## ごあいさつ

ホスピス長 奥野 貴史

2006年10月にオープンしたホスピス希望館。2021年は15周年にあたります。このコロナ禍さえなければ、この10月は5周年、10周年同様に記念の催しを開き、支えてくださった方々との出会いの場を設けているところでしょう。しかし、現実には面会制限の毎日であり、遺族会である「こもれびの会」は開催できず、月1度催していた「ライラックの会」もお休み中、ボランティアの皆さまにも出会うことができない状態です。このホスピスだよりが、皆さまとの距離を近づける活躍をしてくれることを祈っています。

ただコロナ禍は悪いことばかりではありませんでした。2020年度は、家族と自由に面会ができないなら、とホスピスを退院し、自宅で最期の時を迎えられた25人の方がたを支える働きが出来ました。そして在宅医療に携わる色々な職種の方との出会いを私にもたらしてくれました。私が出来たことをするだけではなく、私ならできそうだと周囲の皆さんが思ってくれることをすることの大切さを知った1年でもありました。

コロナ禍においては、まだまだ予断を許さない状況が続くかと思いますが、ご家族やご遺族、ボランティアの皆さまと語らう機会が出来る日が一日でも早く来ることを祈っています。



## 輝くホスピスへ

医師 細井 順

ただいま!!2017年末にヴォーリスを離れましたが、実は、去年(2020年)春頃から、耳をすますと聴こえてくる『湖畔の声』に導かれて、今年、帰ってきました。

わが人生を一巻の物語として振り返り、起承転結という形でまとめてみると、起=生まれてから外科医として仕事をしてきた45年間、承=ホスピス医として過ごしてきた21年間、転=ヴォーリスを離れていたこの3年間、結=古希を迎えて始めるこれからの?年間ということになります。

ヒルティの『眠られぬ夜のために』には、「人生において、なによりもまず知らなければならないのは、自分が何を本当になしとげたいかだ」とありました。さらに、「それを知るためには人は通常、生涯の半ば以上をついやす」のだそうです。

「おかえりなさい」と迎えてくれた病院スタッフの優しいまなざしに、心が潤されました。これからは、ホスピスの働きを通して明らかにされる人生の真実=「人間は『いのち』のつながりの中で輝く」ことを広く伝えていくことです。

病院も社会も国も、生きていくためには経済との両立が欠かせません。けれども、時の流れの中でひろく全体を見渡しながら、この世に生まれたことの喜びや価値を多くの出会いの中で確かめていきましょう。



## ヴォーリス記念病院ホスピス 緩和ケア病棟が16年目を迎えました。

看護師長 久城 亜也子

私たちの生活様式を大きく変化した新型コロナウイルス感染症終息の目処は、まだまだ経ちそうにありません。

面会制限の中、ホスピス理念「その人がその人らしく生活することを支援する」を果たしていく反面、患者さんや家族さんスタッフを感染から守る安全対策を行う、その両立を果たす試行錯誤を続けた1年半でした。

面会方法の工夫「コミュニケーション支援」では、リモート面会や窓越し面会から「面会の予約制」をとり現在に至っています。

ホスピス内でも様々な行事やボランティアさんの活動が中止となり、個別対応や代替方法を行っています。

こんな「コロナ禍」ではありますが、ホスピスに入院された患者さんが沢山在宅療養を選択され、お家で過ごされるケースも増えました。そんな患者さんや家族さんを支えるのも私たちの大切な役割です。

先行き不安な状況ではありますが、一人ひとりの患者さん家族さんの思いを大切に「全人的なケア」を提供できるよう今後も頑張っていきたいと思っています。

これからも地域医療を支える在宅療養支援病院としての役割を精進していきます。



## コロナ禍におけるホスピス病棟

緩和ケア認定看護師 谷川 弘子

その人がその人らしく過ごし、会いたい人といつでも会っていただけるように、24時間面会できるのが、ホスピス病棟だ。

当たり前に出ていたことが、このコロナ禍によって苦渋をしいられる状況となっている。

ホスピスには免疫機能の低下した患者が入院している。それゆえ、感染への危機感は強く意識しなければならない。

感染対策上、当院ホスピスも面会・付き添いの制限をせざるを得ず、そんな中でも患者・家族のつながりを何とか大切にしたいと、条件付きでの面会・付き添いが出来るよう病院側と調整を図ってきた。

人数や時間制限という壁もありつつ、必死にスタッフたちは感染対策とホスピスケアのはざまの医療現場で最善の策を講じながらケアに邁進している。

時に心折れそうな時もありながらも、その心を繋ぎとめてケアに向かう気持ちを振立させてくれているのも、患者の辛さをそばで感じ、少しでも心穏やかに過ごしてほしいという思いからだ。

コロナ禍の長期化でホスピスケアと感染対策をどう両立していくか、まだまだ苦悩の日々は続くだろう。

それでも、可能な限り患者・家族の希望の実現に向けて、日々一杯一杯の今できるホスピスケアを提供していきたいと心から願っている。

## 新しい仲間



看護師 寄木 藍

8月より、外来から異動となりました。緩和外来を担当させて頂くことがありましたが、病棟は初めてなので、一から勉強させて頂きます。患者様が安心して穏やかに過ごしていけるよう、微力ではありますが、力になりたいと思います。よろしくお願いします。



看護師 村川 美都

6月からホスピス病棟に配属となりました。以前いた病棟との違いを感じながら学びの多い毎日を過ごしています。患者様、ご家族の心に寄り添えるようなケアができればと思います。よろしくお願いします。



看護事務補助者 堂川 富美江

4月からホスピスへ10年ぶりに戻って来ました。オープン当時とは、世の中も変わり新型コロナウイルス感染症という、大きな壁が立ちました。しかしホスピスの患者さんに対する思いは、少しも変わっていません。微力ではありますが、穏やかな毎日が過ごせますように、お力になれば幸いです。よろしくお願いします。



主任 野村 嘉代

令和3年3月に回復期リハビリ病棟からホスピス病棟へ異動になり、日々学びながら看護させて頂いています。主任として、患者さんや御家族さまの思いに寄り添い、心の支えとなるような看護をしていきたいと思っています。また、ホスピス病棟スタッフの思いも傾聴し、働きやすい環境を作っていきたいと考えています。



看護補助者 鈴木 有紀子

8月から1病棟からホスピス病棟に配属となりました。患者様との出会いを大切にしながら、少しでも不安なく、安心して過ごしていけるように頑張っています。